

令和 8 年度（2026 年度）第 3 回政策会議

日 時：令和 8 年（2026 年）8 月 2 7 日（木）13:30～13:45

会 場：市長会議室

参集者：大泉市長，佐藤副市長，田畑副市長，手塚企業局長，木村教育長，
渡邊企画部長，木村総務部長，島田財務部長，宮田市民部長

付議事項

函館市基本構想（2027～2036）（素案）について

対応者

渡邊企画部長，木谷企画部計画推進室長，井本新計画策定担当課長

◆議題の趣旨◆

函館市基本構想（2027～2036）（素案）について協議しました。

◆協議の結果◆

原案のとおり，本件の内容は了承されました。

◆主な発言◆

■渡邊企画部長

函館市基本構想（2027～2036）（素案）について，企画部から説明する。

令和 9 年度（2027 年度）を始期とする函館市基本構想について，昨年度，職員・市民に向けたワークショップ等を実施し，市民意見を集約した。今年度，5 月に第 1 回の基本構想審議会を開催し，市長から基本構想について諮問をした。計 4 回の会議を経て次期基本構想の審議会案を取りまとめ，市長へ答申いただいたところである。この答申内容を基に市の基本構想案を作成したので，審議をお願いする。内容については，井本新計画策定担当課長から説明する。

■井本新計画策定担当課長

はじめに構想素案の骨格部分をご説明する。本市の目指すまちの姿を含め，体系図（案）における各章の項目名等の文言は，全て答申のままとなっている。なお，素案の各項目内容を説明する文章等については，文言の整理など一部修正をしたところである。

次期基本構想におけるまちの将来像となる本市の目指すまちの姿は，暮らしを軸とした「安全・安心で，幸せを実感できるまち」と，産業を軸とした「魅力に

あふれ、活力ある産業のまち」である。この2つを、まちづくりを支える柱として明確に示すことで、市民に分かりやすく、共有できる将来像になると考えており、その実現に向け、令和9年度（2027年度）から10年間、市民、行政等が一体となって、まちづくりを進めていくというものになる。

目指すまちの姿の実現に向けて、「ひと」、「くらし」、「しごと」、「都市」といったカテゴリーで整理した4つの基本方針、さらに各方針に3項目ずつ計12項目の基本施策を位置付ける構成となっている。また、まちづくりの推進にあたっては、5つの視点を踏まえ取り組むこととしている。

続いて構想素案について各章ごとに説明する。「策定の趣旨」、「本市を取り巻く状況」、「まちづくりの視点」、「目指すまちの姿」、「実現に向けて」の全5章で構成をしている。

「第1章 策定の趣旨」について、本市を取り巻く社会情勢が大きく変化するなか、本市の魅力をさらに高め、次世代に引き継いでいくためには、市民が互いに力をあわせ、まちの未来をともに築いていく必要があり、函館市自治基本条例の規定に基づいて、まちづくりの指針となる新たな基本構想を策定することを「策定の意義」としているほか、目標年次については、令和9年度（2027年度）を初年度とし、10年後にあたる令和18年度（2036年度）としている。また、対象区域については、基本的に函館市全域としている。

「第2章 本市を取り巻く状況」について、1の「社会情勢」で、世界の主な動きと日本の動向を「人口減少・少子高齢化の進行」、「テクノロジーの進展」、「環境・エネルギー問題」、「大規模災害への対応」としてまとめている。

2の「本市の特性」について、本市の「位置・地勢」、「あゆみ」を概況としてまとめたほか、今後のまちづくりの基盤となる地域資源として、「歴史・文化」、「名所」、「史跡」、「名産品」、「施設」、「公園」、「交通」の7つを挙げている。

3の「本市の現状・将来展望」について、「人口の推移と将来推計」、「経済・産業」、「市民生活」、「土地利用の方向」の4つの観点から整理している。

「第3章 まちづくりの視点」について、あらゆる分野の取組において、直面する課題に的確に対応するため、まちづくりを進める上で踏まえる重要な5つの視点として、「ウェルビーイングの向上」、「シビックプライドの醸成」、「多様な主体による協働・共創」、「地域資源を活かした価値の創出と地域経済の循環」、「選択と集中による未来への投資」を設定している。

「第4章 目指すまちの姿」について、暮らしと産業を本市のまちづくりを支える2つの柱として捉え、それぞれの充実を図るとともに、両者が相互に高め合うという趣旨で、「市民の幸せと活力ある産業で好循環を」つくるとしている。

「第5章 実現に向けて」については、目指すまちの姿の実現に向けて、4つの基本方針を掲げ、各方針に3項目ずつ計12項目の基本施策を位置付けている。

説明は以上である。

■大泉市長

長い期間にわたって審議会の委員の皆さんや、ワークショップにより市民からも広く意見を聞き、今後 10 年のまちの将来像について練り上げていただき、大変感謝している。市民が共通して目指すゴールが分かりやすく描かれていると思う。この内容ですとする。

■渡邊企画部長

それでは、他に意見がないようなので、原案のとおり了承とさせていただきます。